

オペレーターズマニュアル

HQ682

タフカット モア





500 Venture Drive
Orrville Oh 44667
www.ventrac.com

オーナー様へ ご連絡をいただく際に必要となる情報

製品の修理等について、Ventrac 正規販売店にお問い合わせされる場合は、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。

以下に必要情報をメモしておきましょう。製品の銘板は、下の写真に示す位置にあります。下のメモ欄に記録しておいてください。

販売店名: _____ 購入日: _____

販売店の所在地: _____

販売店の電話番号: _____ 販売店の FAX 番号: _____

モバイルデバイスでシリアル番号プレートのQRコードをスキャンすると、マニュアル、保証、その他の製品情報にアクセスすることができます。



モデル番号 _____

シリアル番号 _____



Venture Products Inc. は、設計・仕様を変更する権利を留保します。弊社は、過去に製造された製品に対してかかる変更を行う義務を負いません。

目次

はじめに	ページ 5
製品の説明	5
オペレーターズマニュアルが必要な理由?	5
マニュアルのご使用方法	6
マニュアル用語	6
安全関係	ページ 7
基本的な安全対策	7
必要なトレーニング	7
個人用保護具 (PPE) の装着義務について	7
運転時の安全確保	7
人を乗せない	9
傾斜地での運転	9
トラックやトレーラによる搬送	10
メンテナンス	10
燃料の安全について	11
油圧機器の安全について	12
カッティングユニットの安全確保	13
油圧フリップアップキット (オプション) の基本的な安全対策	13
安全デカル	14
運転装置	ページ 16
メインベルト用テンションハンドル	16
右側ベルト用テンションスプリング	16
ヒッチアームのピン	16
一次 SDLA コントロールレバー	16
二次 SDLA コントロールレバー	16
重量移動	16
運転操作全般について	ページ 17
日常点検	17
アタッチメントの取り付け	17
アタッチメントの取り外し	17
運転操作	17
アタッチメントを搬送する時	18
刈高の調整 (固定ホイールの場合)	18
刈高の調整 (スイベルホイールの場合)	19
スイベルホイールを外側位置に取り付けたい場合	19

目次

整備	ページ 20
機体の清掃と一般的な保守整備作業	20
デッキカバーの脱着手順	20
デッキの立て方 (デッキを整備位置にするには)	20
刈り込みブレードの点検と交換	21
ブレードの研磨	21
ベルトの点検	22
アタッチメント駆動ベルトの交換	22
メインのデッキベルトの交換	22
右側デッキベルトの交換	23
メインデッキベルトのテンション調整	23
潤滑ポイント	24
格納保管	24
整備スケジュール	25
定期整備チェックリスト	25
仕様	ページ 26
寸法	26
特長	26



Venture Products Inc. より、謹んで Ventrac の新しいタフカットモアをお届けいたします!Ventrac の機器が、お客様にワントラクタソリューションをお届けできることを祈念しております。

お買い上げいただいたタフカットモアと組み合わせ可能な製品すべてを、弊社ウェブサイトでご覧いただくことができます。正規販売店でもご紹介可能です。

アクセサリ	説明	パーツ番号
	油圧式デッキフリップアップキット	70.8226

製品の説明

タフカットモア HQ682 は、背の高い草、太い雑草、やぶなどを刈るために設計されたモアです。大きなバッフルが付いた前面開口部から、草や低木をデッキ内部に完全に取り込んで、切断します。

ヘビーデューティーなブレード 3 枚が相互に逆回転して材料を均一にカットし、均一に分散排出し、ダマを作りません。最大太さ 25 mm まで切断することが可能ですから、密に茂ったやぶなどでも短時間で綺麗に清掃することができます。

回転式のキャスタ車輪を使用した場合、タフカットモア HQ682 の刈高範囲は、89~178 mm、刈高の調整は 12.7 mm 刻みで調整することができます。

固定車輪を使用した場合、タフカットモア HQ682 の刈高設定は、76 mm、92 mm、または 108 mmとなります。

刈り込みデッキを立ててデッキ裏側にアクセスすることができるので、洗浄やメンテナンス作業がしやすくなっています。オプションとして油圧式のデッキフリップアップキットがあり、パワーユニットの油圧システムを利用してデッキを整備位置に立てることができます。

オペレーターズマニュアルが必要な理由?

このマニュアルは、お買い上げいただいた機械を安全に運転操作し維持管理するために必要な重要な知識を身につけていただくためのものです。知りたい情報をすぐ探せるように、いくつかの章に分けて作成されています。

Ventrac の機器それぞれについて、該当する取扱説明書をお読みになり、内容を理解してください。マニュアルをお読みになることで、それぞれの機器に精通することができます。お客様ご自身の安全のためだけでなく、他の人々を危険から保護し、人身事故や装置破損を避けるために役立ててください。この取扱説明書は、常に機械と共に保管してください。本機を売却する場合も、この取扱説明書を一緒に譲渡してください。マニュアルが破損したり読めなくなったりした場合は、すぐに交換してください。お近くの Ventrac 売店で新しいマニュアルを入手していただけます。

Ventrac のアタッチメントを使用する際は、パワーユニットとアタッチメントの両方のマニュアルを読んで安全確保と正しい運転操作について学び、安全作業を心掛けてください。

このマニュアルには、機械の最も安全な運転方法と、機械の性能をを最大限に引き出すための情報が掲載されています。記載されている安全上の注意事項を守らないと、人身事故や機器の故障・損傷の原因となります。

はじめに

マニュアルのご使用方法

人身事故や機器の損傷などの事故を回避できるよう、この説明書では安全に関する特別なメッセージや記号を使用しています。

記号の説明

注意事項

 この記号は健康や安全に関する危険が潜んでいることを意味します。すなわち安全に関わる注意事項をお伝えするものです。あなたと他の人の安全に関わる内容です。

危険の度合いを表す3種類のキーワードがあります。危険、警告、注意、です。機械をお使いいただく際は、常に安全第一を心掛ける必要があります。適切な作業手順を守り、十分に運転操作経験を積んで、事故防止に努めてください。

注:このマニュアルでは、左右を表す方法を以下のように統一しております。左右は常に運転席に座って前を向いている状態を基準として表現されます。

キーワードの意味

⚠ 危険

危険は、人の生命に関わる重大な潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が起こります。危険の度合いが非常に大きい場合に、この言葉が用いられます。

⚠ 警告

警告は、人の生命に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が起こる恐れがあります。

⚠ 注意

注意は、安全に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないとけがや物損事故をおこす可能性があります。安全でない行動や取扱い方法に対して注意を促す場合にも用いられます。

マニュアル用語

- パワーユニット** Ventracトラクタやその他の Ventrac 製品でエンジンを搭載して自走することが可能な機械。アタッチメントやアクセサリを搭載することができる動力機械。
- アタッチメント** Ventrac 製品のうちで、パワーユニットによって駆動させる機械。
- アクセサリ** パワーユニットやアタッチメントに取り付けて使用する機械。
- マシン** パワーユニットと共に用いられるアタッチメントやアクセサリ。

安全関係



基本的な安全対策



Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

必要なトレーニング

- 本機のオーナーは、オペレータに適切なトレーニングを施すことについて全責任を負います。
- 本機のオーナー・オペレータは、本機の運転操作に伴って発生する、すべての人身事故・物損事故の防止および結果について全責任を負います。
- トレーニングを受けていない人や子供に運転操作をさせたり修理整備をさせないでください。地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
- 本機を運転する前に、オペレーターズマニュアルを読んで内容を十分理解してください。
- オペレータがマニュアルの内容を理解できない場合は、オーナーの責任において、内容を十分に理解させてください。
- 運転に必要なすべての装置について、その使い方を学び、理解してください。
- パワーユニットやアタッチメントを緊急停止させる方法を知っておいてください。

個人用保護具 (PPE) の装着義務について

- オーナーは、本機を運転するすべてのオペレータに、適切な防具 (PPE) を着用させる責任があります。本機を使用するときは、必ず以下の PPE を使用してください。
- 目 (視覚) と耳 (聴覚) の保護具 (認定品)。
- つま先が閉じている滑り止め機能のある履物。
- 長ズボン。
- マスク (ほこりの多い場所で作業する時)
- その他、状況次第に応じて必要となる保護具。その他の要件については、製品の安全についての章を参照してください。

運転時の安全確保

- 長い髪は束ねてください。だぶだぶの服装は避けてください。アクセサリは身に着けないでください。
- 運転前点検を行ってください。破損したり欠落、摩耗している部品は交換してください。ガードやシールド類がすべて適正位置に取り付けてあり、正常に機能することを確認しましょう。運転に必要な調整は、運転開始前に済ませましょう。
- 本書では、説明の都合上、シールドやカバーを外すなどした写真を使用していることがあります。どんな場合にも、運転時にはシールドやカバーを必ず取り付けてください。
- 本機に改造や変更を加えると、安全性が低下し本機を破損させる恐れがあります。安全装置を改造しないこと、シールドやカバーを外したまま運転しないことをお守りください。
- 毎日の運転開始前に、運転装置がすべて正しく機能すること、安全装置がすべて正常に機能していることを確認してください。運転装置や安全装置が正常に機能していない場合は、運転しないでください。
- 運転前に、駐車ブレーキの機能点検を行ってください。必要に応じて駐車ブレーキの修理や調整を行ってください。
- 安全デカルに記載されているすべての注意事項を守ってください。
- どの運転装置も、運転席以外からは操作できないようになっています。
- RPOS 搭載機では、ROPS を真っ直ぐに立てた状態で固定し、必ずシートベルトを着用して運転してください。

安全関係



基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



- ・ 運転前に、アタッチメントやアクセサリがパワーユニットに確実に取り付けられていることを確認してください。
- ・ 運転開始前に、パワーユニットとアタッチメントの周囲に人がいないことを確認してください。作業場所に人が入ってきたら機械を停止させましょう。
- ・ 運転操作に集中しつつ、常に周囲の状況に注意を払ってください。常に機械の進行方向を注視してください。
- ・ バックするときには、足元と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- ・ マシンが何かにぶつかったら、すぐに停止して点検してください。破損箇所は必ず修理してから、運転を再開するようにしてください。
- ・ 故障や破損の気配に気づいたら、直ちに運転を停止してください。運転音が通常と異なるのは破損や故障の徴候の場合もあり、また整備をすれば直る場合もあります。破損箇所は必ず修理してから、運転を再開するようにしてください。
- ・ ハイ・ローレンジ機能のあるマシンの場合、傾斜地では絶対にレンジの切り替えをしないでください。シフトは必ず平地で、駐車ブレーキをかけた状態で行うこと。
- ・ 装置が動作中は機械から離れない。
- ・ 駐車する時は必ず平らな場所に駐車してください。
- ・ アタッチメントの駆動ベルトをパワーユニットに取り付ける時は、必ずエンジンを停止してください。
- ・ 運転席を離れる場合には、必ず、アタッチメントを地表面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。すべての可動部が完全に停止するまで、運転席を離れないでください。
- ・ マシンから離れる場合には、必ず、アタッチメントを地表面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。
- ・ 十分な明るさのない場所で運転しないでください。
- ・ 落雷の危険がある時には運転しないでください。
- ・ アタッチメントから放出される刈りかすなどを、人や建物、動物、車などに向けしないでください。
- ・ 壁やなどにも向けしないでください。壁などに当たった異物が飛んできてけがをする恐れがあります。
- ・ 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立ち木などの障害物の近くでは十分に安全に注意してください。
- ・ 締め切った場所では、エンジンを運転しないでください。
- ・ エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーに触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。
- ・ エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を規定以上に上げたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故の危険が大きくなります。
- ・ バッテリーコンパートメント、エンジンルーム、マフラーの周辺などに刈りかす、落ち葉、大量のグリスなどの可燃物がたまると火災の恐れがありますから、こまめに掃除してください。
- ・ マシンにぶつかったり、当たって跳ね飛ばされたりする可能性のあるものを作業場所に置かないようにしてください。

安全関係



基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



- ・ 作業場所に、無用の人間やペットなどを近づけないでください。
- ・ 作業を始める前に、作業場所をよく観察してください。安全に走行できるか、転倒の危険がないか、わからない場所では運転しないでください。
- ・ 不整地では速度を落としてください。
- ・ 不適切な運転は、重大な人身事故や死亡事故につながります。運転前に、パワーユニットと、使用するアタッチメントを安全に運転操作する方法を十分に理解してください。
- ・ 体調が悪い時や気分がすぐれない時、スマホなどの機器に対応しなければならないことが予想される時、判断力や反射的な動作に影響が出るような物質を摂取した時は、運転しないでください。
- ・ 子供はマシンに非常に興味を持つものです。子供に注意し、作業場所に入れないようにしてください。子供が近づいてきたらマシンを停止させてください。
- ・ パワーユニットやアタッチメント、アクセサリは、公道を走行することを目的としておりません。絶対に公道上や高速道路上で運転しないでください。
- ・ 道路の近くで運転するときは、安全灯を点灯してください。
- ・ 道路付近での運転や道路を横断する場合は、速度を落として、周囲の交通に十分注意してください。道路や歩道を横断するときは、一旦停止してください。視界が遮られる場所やその近くでは、安全に十分注意してください。

人を乗せない

- ・ パワーユニットに乗れるのはオペレーター一人だけです。他の人を乗せないでください。
- ・ アタッチメントやアクセサリにも、絶対に人を乗せないでください。

傾斜地での運転

- ・ 斜面はスリップや転倒などを起こしやすく、これらは重大な人身事故につながります。パワーユニットの運転装置に十分に慣れると共に、緊急ブレーキをいつでも使えるようになってください。
- ・ 折りたたみ式の ROPS が装備されているマシンを傾斜地で運転する時は、ROPS を立ててロックしておく必要があります。
- ・ 傾斜が 15 度を超える場所で（ローレンジが使えるマシンでは）ローレンジで運転してください。
- ・ 傾斜地では、急停止や急発進をしないでください。
- ・ 傾斜地では絶対に ハイ・ローレンジの切り替えをしないこと。レンジの切り替えや、パワーユニットをニュートラルにする時には、必ず平地に移動し、駐車ブレーキを掛けてください。
- ・ 濡れた路面やぬかるみなどは、安全性を低下させます。立ち往生する可能性のある場所や転倒する可能性のある場所では運転しないでください。
- ・ 危険な地形や見えにくい危険個所に注意してください。
- ・ 段差、溝、堤防などには近づかないでください。
- ・ 傾斜地で運転している時は、急旋回をしないように注意してください。
- ・ 傾斜地での牽引作業は安全性が低下します。傾斜地では、オーナー/オペレータの責任において、安全に作業ができる限界荷重を決定してください。

安全関係



基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



- ・ 移動走行する場合は、安定性を高めるため、アタッチメントを下げた状態または地表面にできるだけ近くまで下げてください。
- ・ 傾斜地では、可能な限り登り下り方向で運転してください。傾斜地を走行中に曲がる必要がある場合は、速度を落として谷側へゆっくりと曲がってください。
- ・ 運転中に燃料切れを起こさないよう、十分な量の燃料を積んでおいてください。推奨燃料積載量は最低でもタンク 1/2 です。

トラックやトレーラによる搬送

- ・ トレーラやトラックにマシンを積み降ろすときには安全に十分注意してください。
- ・ トレーラやトラックに積み込む際には、機体と同じ幅のある歩み板を使用してください。
- ・ 搬送中のマシンは、駐車ブレーキだけで完全に固定することはできません。必ず、ストラップ、チェーン、ケーブル、ロープなどで、パワーユニットとアタッチメントを運搬車両にしっかりと固定してください。機体の前後に取り付けた固定ロープは、どちらも、機体を外側に引っ張るように配置してください。
- ・ 搬送中は、パワーユニットの燃料バルブを閉めておいてください。
- ・ バッテリー遮断スイッチのあるマシンでは、スイッチを OFF にして、通電を遮断してください。

メンテナンス

- ・ 安全デカルは全て読める状態に維持してください。安全や操作説明に関わるデカルはどれもグリスやほこりで汚れないように維持してください。
- ・ デカルが色あせたり、読みにくくなったり、はがれてなくなったりした場合は、速やかに販売店に連絡して新しいデカルを入手してください。
- ・ 新しい機器などを取り付ける場合は、それに最新の安全デカルが貼られていることを確認してください。
- ・ 交換部品は必ず Ventrac 純正品を使用してください。
- ・ 修理を行う前に、必ずバッテリー遮断スイッチを OFF 位置にするか、バッテリーを取り外してください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。接続するときにはプラス端子に先に接続し、次にマイナス端子に接続してください。
- ・ ボルト、ナット、ねじなどの締結具にゆるみが出ないように維持してください。
- ・ アタッチメントは必ず床面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。清掃、点検、調整、修理などの作業は、すべての可動部が完全に停止したのを確認してから行ってください。
- ・ パワーユニット、アタッチメント、アクセサリの修理方法や調整方法がオペレーターズマニュアルに記載されていない場合、それらの作業は Ventrac 正規販売店が行う必要があります。
- ・ 運転席に人がいるときは、絶対にパワーユニットやアタッチメントに対する作業を行わないでください。
- ・ バッテリーを取り扱うときは、必ず保護メガネを着用してください。
- ・ 定期的に、燃料ラインとその取り付け具合、摩耗の有無を点検してください。必要に応じて締め付けや修理を行ってください。
- ・ バッテリーコンパートメント、エンジンルーム、マフラーの周辺などに刈りかす、落ち葉、大量のグリスなどがたまると火災の恐れがありますから、こまめに掃除してください。
- ・ エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの排気系統に触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。

安全関係



基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



- ・ マシンを格納する際にはエンジンが十分冷えていることを確認し、また裸火の近くを避けて保管してください。
- ・ エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を規定以上に上げたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故の危険が大きくなります。
- ・ スプリングには、エネルギーが蓄積されている場合があります。スプリングやバスプリング付き部品を取り外すときは注意してください。
- ・ 駆動系や可動部・回転部に障害物や詰まりなどがあると、エネルギーが蓄積されていることがあり、それらの障害物や詰まりを取り除いた時、駆動系や可動部・回転部が急に動くことがあります。障害物や詰まりを手で取り除こうとしないでください。動力部には手、足、衣服などを近づけないでください。

燃料の安全について

- ・ 人身事故や物損事故を防止するために、ガソリンの取り扱いには細心の注意を払ってください。ガソリンは非常に引火・爆発しやすい物質です。
- ・ 喫煙しながらの給油、裸火や火花の近くでの給油はしないでください。
- ・ 給油は必ず屋外で行ってください。
- ・ 燃料や気化した燃料が、裸火、火花、種火などに到達するような屋内で、マシンや燃料容器を保管しないでください。
- ・ 燃料は必ず認定された容器に保存してください。子供の手の届くところに保管しないでください。
- ・ トラックの荷台に敷いたマットなどの絶縁体の上では絶対に燃料の給油をしないでください。容器は車から十分に離し、地面に直接置いて給油してください。
- ・ 給油は、マシンをトラックやトレーラから地面に降ろし、機体を接地させた状態で行ってください。マシンを車両に搭載したままで給油を行わなければいけない場合には、大型タンクのノズルからでなく、小型の容器から給油してください。
- ・ エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしないでください。エンジンが冷えてから給油してください。
- ・ 傾斜地では絶対に燃料キャップを開けないでください。必ず、平らな場所に駐車してから開けるようにしてください。
- ・ 給油後は、燃料タンクのキャップと燃料容器のキャップを確実に閉めてください。
- ・ 燃料を入れすぎないでください。給油は燃料タンクの補給管の根元までとし、補給管一杯まで入れないでください。燃料タンクに燃料を入れ過ぎると、エンジン側に燃料があふれ出たり、タンクから燃料が漏れたり、燃料蒸気制御装置を損傷させたりする恐れがあります。
- ・ 燃料がこぼれた場合、エンジンを始動させないでください。こぼれた場所からパワーユニットを離し、燃料が完全に気化して拡散してしまうまで、火気の使用を控えてください。
- ・ 燃料タンクから燃料を抜き取る必要がある場合は、屋外で、認定された容器に排出することが必要です。
- ・ 定期的に、燃料ラインとその取り付け具合、摩耗の有無を点検してください。必要に応じて締め付けや修理を行ってください。
- ・ 燃料系統には燃料バルブが付いています。マシンを修理工場などへ搬送するとき、屋内に駐車するとき、は燃料系統の整備を行うときは、燃料バルブを閉じてください。

安全関係



基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



油圧機器の安全について

- 油圧接続部にゆるみが無いように、またすべての油圧ホースとチューブを良好な状態で維持してください。オイル漏れが発見された場合は、必ず修理し、損傷や劣化したホースやチューブを交換してから運転してください。
- 油圧のオイル漏れには、高圧が掛かっている可能性があります。したがって油圧オイルの漏れには特別の注意が必要です。
- オイル漏れ箇所を探すときは、段ボールと拡大鏡を使ってください。
- 油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているので、絶対に手などを近づけないでください。高圧で噴出するオイルは皮膚を突き破って重大な傷害を引き起こし、放置すると重篤な合併症や二次感染につながる恐れがあります。万一、油圧オイルが皮膚に入ってしまった場合は、どんなに軽傷でも直ちに医師の診察を受けてください。
- 油圧システムは内部にエネルギーを蓄積している場合があります。油圧システムの整備や修理を行う前には、すべてのアタッチメントを外し、駐車ブレーキブレーキをかけ、重量移動システム搭載機ではシステムを解除し、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。パワーユニットのエンジンを停止し、油圧コントロールレバーを左右に動かして補助油圧システム内の油圧を解放し、その後に補助油圧クイックカップラの接続を外してください。



HQ682 の基本的な安全対策



背の高い草や深く茂った低木などによって、岩や木の切り株などの大きな障害物が見えなくなっている場合があります。

- 作業場所に隠れた障害物がないか、作業前によく下調べを行い、障害物を取り除いたり、目印をつけるなどの安全確保処置を行ってください。
- 同様に、刈り込みデッキから飛び出してくる危険性のある物を取り除いてください。

カッティングユニットの安全確保

- 回転刃の危険：回転している刈り込みブレードその他の可動部に触れると大けがをする。手足を近づけないこと。
- ひとつのブレードを回転させると、他のブレードも回転することがある。
- 異物が飛び出す危険：モアの排出口を人や動物や建物などに向けないこと。必ず、デフレクタを取り付けて使用すること。
- 刈り込みを行っていない時、特に砂利道のような場所を通る時などは、必ず PTO を OFF にすること。
- ブレード回転中は絶対にデッキを上昇させないこと。

油圧フリップアップキット(オプション)の基本的な安全対策

- アタッチメントの油圧システムには、エネルギーが蓄積されている場合があります。油圧システムの保守や修理を行う前には、アタッチメントの補助油圧ホースをパワーユニットから取り外す必要があります。アタッチメントを床面まで降下させてパワーユニットのエンジンを止め、2 次 SDLA レバーを左右に何度か動かして補助油圧回路内部の圧力を解放した後、補助油圧クイックカップラを外してください。
- デッキが整備位置ににある間は、オプションのフリップアップキットの補助油圧ホースを外さないでください。

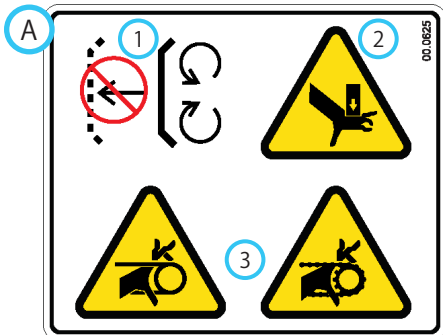
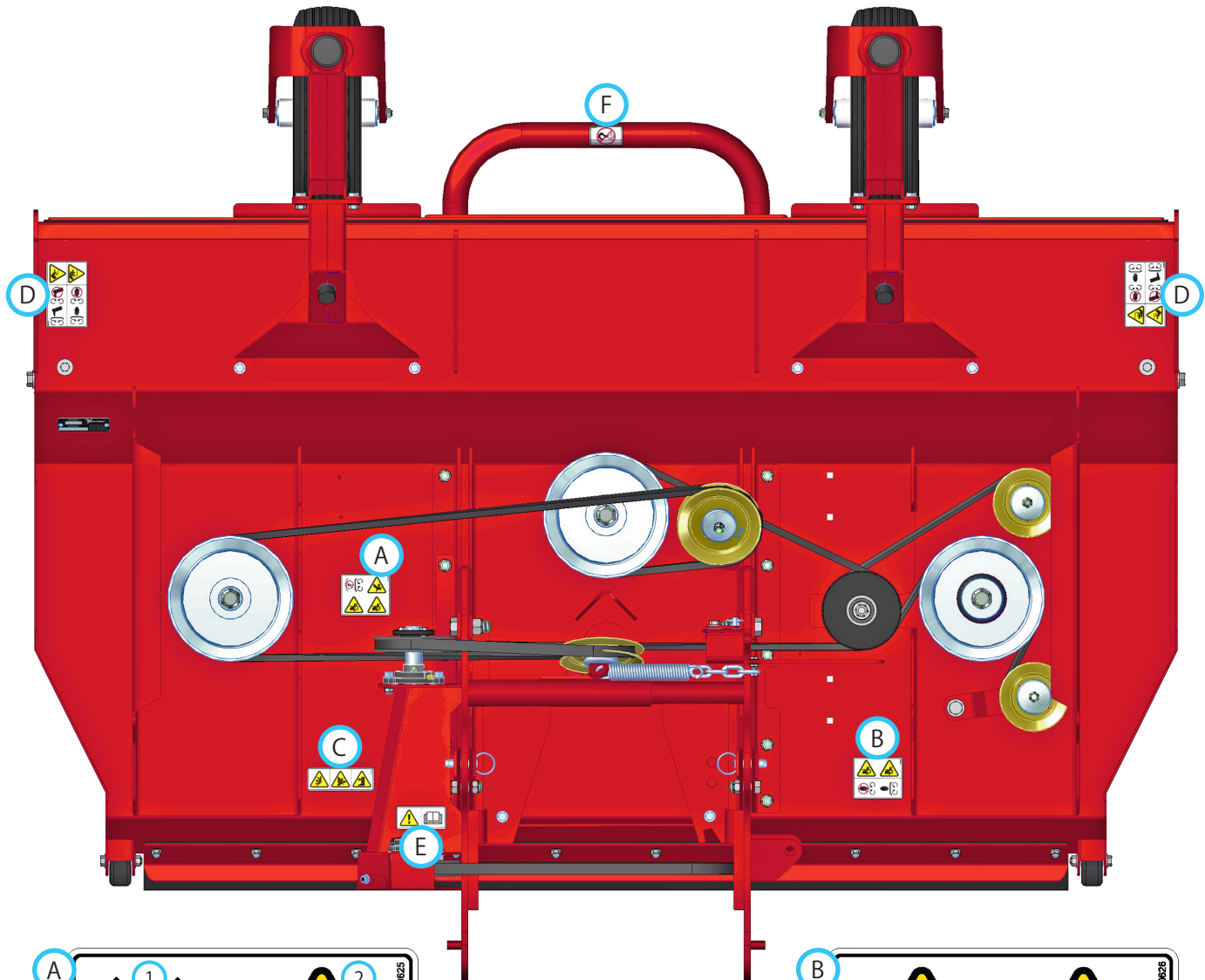
安全関係

安全デカル

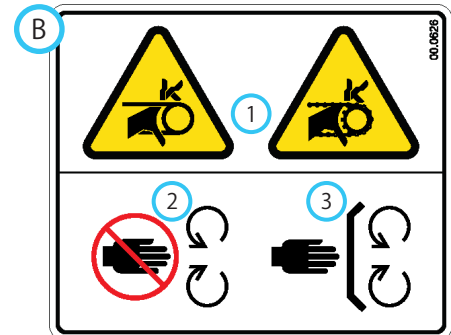
以下の安全デカルは必ずアタッチメントに貼付しておいてください。

安全デカルは全て読める状態に維持してください。安全や操作説明に関わるデカルはどれもグリスやほこりで汚れないように維持してください。デカルが色あせたり、読みにくくなったり、はがれてなくなったりした場合は、速やかに販売店に連絡して新しいデカルを入手してください。

新しい機器などを取り付ける場合は、それに最新の安全デカルが貼られていることを確認してください。

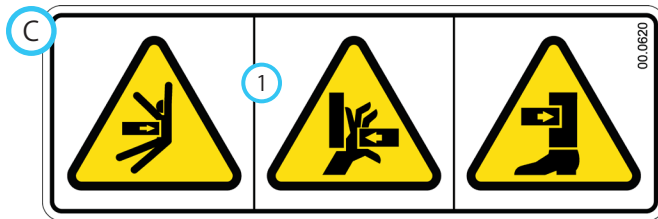


1. シールドが外れている：取り付けて運転すること。
2. 挟まれたりつぶされたりする危険。
3. 指や手が巻き込まれる危険。

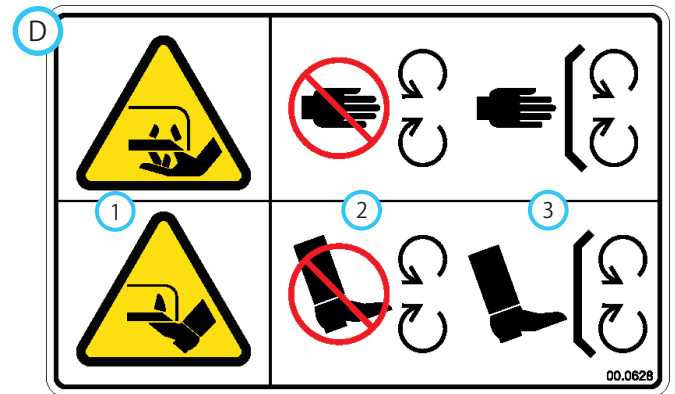


1. 指や手が巻き込まれる危険。
2. 可動部に近づかないこと。
3. すべてのガードやシールドを正しく取り付けて運転すること。

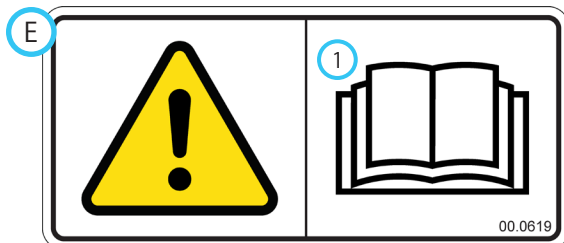
安全関係



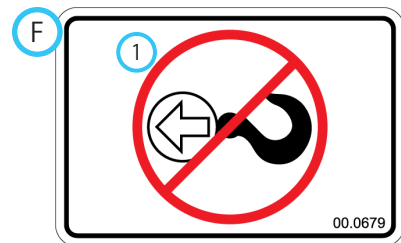
1. 身体を挟まれたりつぶされたりする危険。



1. 刈り込み刃によって手足をけがしたり切断する危険。
2. 可動部に近づかないこと。
3. すべてのガードやシールドを正しく取り付けて運転すること。



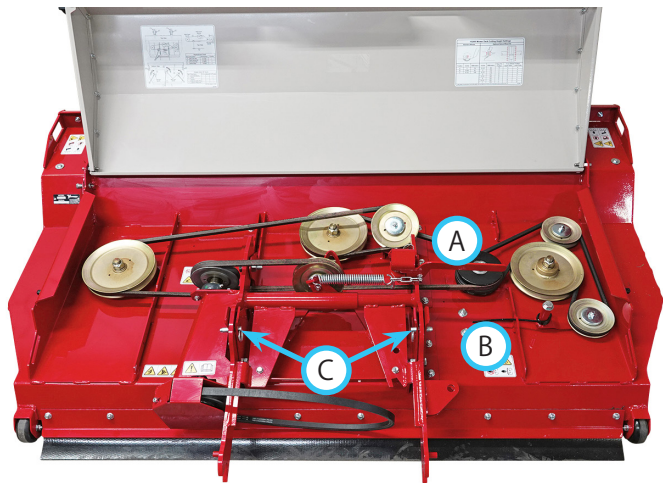
1. オペレーターズマニュアルを読むこと。



1. ここで牽引しないこと。

デカル	名称	パーツ番号	数量
A	シールドが外れている	00.0625	1
B	巻き込まれる危険	00.0626	1
C	身体を挟まれたりつぶされたりする危険	00.0620	1
D	切断の危険:刈り込み刃	00.0628	2
E	オペレーターズマニュアルを読むこと	00.0619	1
F	ここで牽引しないこと	00.0679	1

運転装置

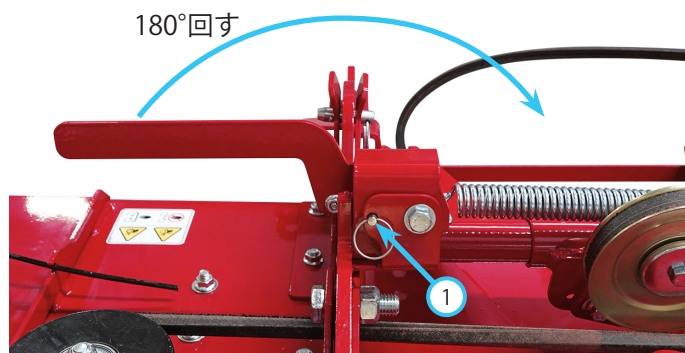


- A. メインベルト用テンションハンドル
- B. 右側ベルト用テンションスプリング
- C. ヒッチアームのピン

メインベルト用テンションハンドル

メイン・デッキベルトテンションハンドル (A) は、主デッキベルトに張力を掛けるためのハンドルです。デッキを整備位置に立てる時には、このベルトのテンションを解放する必要があります。

その場合には、ハンドルについているボールピン (1) を外し、ハンドルを 180 度回転させると、ベルトの張力が解放されます。



右側ベルト用テンションスプリング

右側ベルトテンションスプリング (B) は、右側スピンドルデッキのベルトに張力を掛けるためのハンドルです。

ヒッチアームのピン

ヒッチアームピン (C) は、刈り込みデッキの後部の高さの設定と、デッキをパワーユニットに取り付けるためのヒッチアームの高さの設定に使用します。また、デッキを立てた状態 (整備位置) に固定するためにも使用されます。

一次 SDLA コントロールレバー

パワーユニットの一次 SDLA レバー* を左に引くと、刈り込みデッキが上昇します。レバーを右に動かすと、デッキが下降します。刈り込み作業中は、一次 SDLA レバーをフロート位置 (ディテント固定位置) にある必要があります。

二次 SDLA コントロールレバー

二次 SDLA レバーは、油圧式デッキフリップアップキット (オプション) 用です。レバーを左に倒すと、デッキが立ち上がって整備位置になります。右に倒すと、デッキが下降して刈り込み位置になります。

重量移動

パワーユニットの重量移動システム*の適切な設定位置は、地形や地盤の状況によって変わる場合がありますが、ほとんどの場合は、重量移動装置を最大能力の 1/2 から 3/4 に設定する必要があります。

*パワーユニットの制御装置の使い方については、パワーユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

運転操作全般について

日常点検

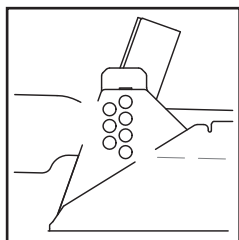


機械の点検、修理、調整などを行う時は、必ず駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを抜き取り、機械のすべての動作が完全に停止していることを確認すること。

1. 平らな場所にマシンを止め、エンジンを停止し、オイルなどが十分に冷えるのを待つ。
2. パワーユニットとアタッチメントの両方の目視点検を行う。ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。
3. 油圧フリップアップキットを搭載しているマシンでは、油圧ホースと油圧フィッティングを点検し、接続部にオイル漏れなどが無いことを確認する。
4. 駆動ベルトに傷や過度の摩耗がないか点検する。このマニュアルの「ベルトの点検」の項を参照。
5. 刈り込みデッキのブレード、およびブレードの取り付けボルトを点検する。ブレードの刃先が鋭利であること、ブレードが確実に取り付けられていることを確認する。必要に応じて整備を行う。

アタッチメントの取り付け

1. のヒッチアームピンを、G の位置に取り付ける。
2. アタッチメントのヒッチアームまで、パワーユニットをゆっくり前進させる。パワーユニットの前ヒッチを上下させて昇降アームをアタッチメントのヒッチアームに合わせ、アタッチメントをパワーユニットに接続する。
3. 完全に入ったら、前ヒッチのロッキングレバーを閉じる*。
4. 駐車ブレーキ*を掛け、エンジンを止める。
5. アタッチメントの駆動ベルトを、パワーユニットの PTO の駆動プーリに取り付ける。それぞれのプーリにベルトが正しく掛かっていることを確認する。
6. PTO ベルトのテンションロッドを締める。
7. 油圧フリップアップキット搭載機では、油圧ホースの端部をきれいにぬぐい、パワーユニットの油圧クイックカップラに接続する。複数組みのホースを接続する場合は、同じ色のホースどうしを接続する（赤カップラには赤ホースという風に）。
8. ヒッチアームピンを所定の刈り高位置に移動してください。



アタッチメントの取り外し

1. 平らな場所でパワーユニットを停止させて駐車ブレーキ*を掛ける。
2. ヒッチアームピンを、G の位置に取り付ける。
3. アタッチメントを地表面まで降下させる。
4. パワーユニットのエンジンを止める。
5. PTO ベルトのテンションロッドをゆるめる。
6. パワーユニットの PTO の駆動プーリから、アタッチメントの駆動ベルトを外す。
7. 油圧フリップアップキット搭載機では、油圧クイックカップラをパワーユニットから外し、ホースの端をアタッチメントのトップフレームの穴に収納する。
8. 前ヒッチのロッキングレバー*を解除する。
9. パワーユニットのエンジンを再始動し、ゆっくりとバックしてアタッチメントから離れる。アタッチメントが外れにくい時は、ステアリングハンドルを左右に軽く回してタイヤを揺るとよい。

運転操作

運転前に始業点検を行ってください。希望通りの刈高さにセットされていること、ヒッチアームピンが正しい位置にあることを確認してください。パワーユニットの重量移動装置が正しく設定されていることを確認してください。

作業場所を下見し、石や棒など、デッキから飛び出したり、ブレードに絡まって危険なものなどを取り除いてください。

刈り込みデッキを床面まで降下させ、パワーユニットの一次 SDLA レバーをフロートにセットします。

パワーユニットのエンジンを 2,000-3,000 rpm に調整し、PTO スイッチを入れ、スロットルを希望のエンジン速度にセットします。

刈り込みラインを決めて前進で刈り込みを開始します。必要に応じて障害物の回避や異物の除去などを行いながら刈り込みを進めます。刈り込みラインの端に来たら、パワーユニットとデッキを旋回させて次の刈り込みラインに合わせて作業を続けます。

*パワーユニットの制御装置の使い方については、パワーユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

運転操作全般について

アタッチメントを搬送する時

無駄な損耗を減らすため、パワーユニットのフロントヒッチとアタッチメントを一番上まで上げた状態で運搬してください。起伏の大きい路面や未舗装道などでは、パワーユニットを確実にコントロールできるように、また、パワーユニットやアタッチメントへの衝撃を軽減するために、速度を十分に落として走行してください。アタッチメントを搬送する際は、必ずパワーユニットの PTO を解除してください。

刈高の調整 (固定ホイールの場合)

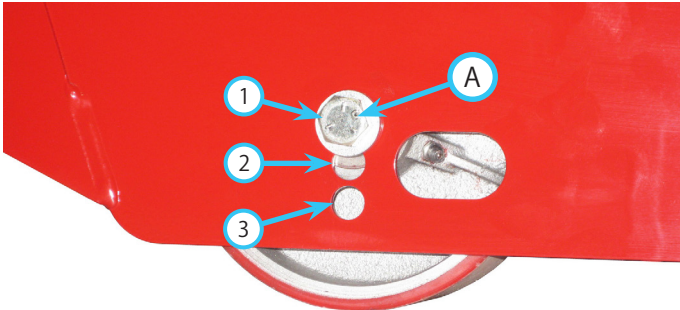
1. パワーユニットと刈り込みデッキを平らで滑らかな場所に停めて駐車ブレーキを掛ける。

警告

刈り込みデッキが誤って落下して人身事故や物損事故になる恐れがある。

デッキを上昇させた状態で調整を行う時は、必ずブロックやジャッキスタンドでデッキを確実に支えておくこと。

2. デッキの前部を持ち上げ、ブロックまたはジャッキスタンドで支える。
3. エンジンを止め、キーを抜き取る。
4. ホイール取り付けボルト (A) を外し、ホイールを希望位置に移動する。



ホイールの位置	mm	インチ(")
1	76	3
2	92	3-5/8
3	108	4-1/4

5. ホイール取り付けボルトを取り付けて 102 N·m (10.4 kg·m) にトルクで締めする。
6. もう一方のホイールにも同じ操作を行う。
7. 刈り込みデッキを床面まで降下させ、一次 SDLA レバーをフロートにセットする。

8. 床面からデッキの上面までの高さを、図の位置 (BとC) で測定する。後ろ位置の高さが前位置での高さより小さい場合、または前位置の高さより 6.5mm 以上大きい場合には、ヒッチアームピンの位置調整を行う。



9. デッキ後部を低くしたい場合は、ヒッチアームピンを一目盛り高い位置にセットする。デッキ後部を高くしたい場合は、ヒッチアームピンを一目盛り低い位置にセットする。
10. ヒッチアームピンの位置を変更した後、デッキが水平であることを確認しておく。

運転操作全般について

刈高の調整(スイベルホイールの場合)

1. パワーユニットと刈り込みデッキを平らで滑らかな場所に停めて駐車ブレーキを掛ける。

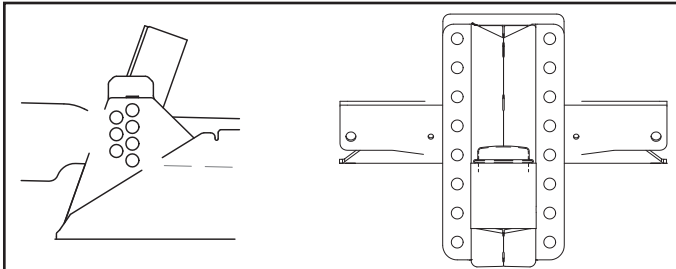


警告

刈り込みデッキが誤って落下して人身事故や物損事故になる恐れがある。

デッキを上昇させた状態で調整を行う時は、必ずブロックやジャッキスタンドでデッキを確実に支えておくこと。

2. デッキの前部を持ち上げ、ブロックまたはジャッキスタンドで支える。
3. エンジンを止め、キーを抜き取る。
4. 以下の表で、希望する刈高に対応する前輪の高さとヒッチアームピンの位置を決定する。



インチ(")	mm	ヒッチアームピンの位置	前ホイールの位置	
			上側ボルト	下側ボルト
3-1/2	89	B	E	H
4	102	C	E	H
4-1/2	114	C	D	G
5	127	D	D	G
5-1/2	140	D	C	F
6	152	E	C	F
6-1/2	165	F	B	E
7	178	F	A	D

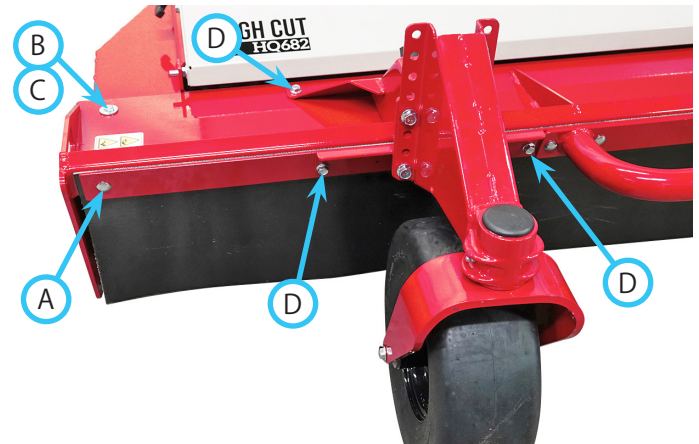
*刈高はおおよその値です。パワーユニットのモデルやタイヤの種類などによって多少異なる場合があります。

5. 左右のヒッチアームピンを、希望刈高位置にセットする。
6. スイベルホイールのフレームをブラケットに固定しているボルト(4本)を外す。
7. スイベルホイールのフレームを希望刈高位置に取り付け直し、ボルト4本で固定する。締め付けトルクは 42 N・m (4.3 kg・m)
8. 前側のホイールにも同じ操作を行う。

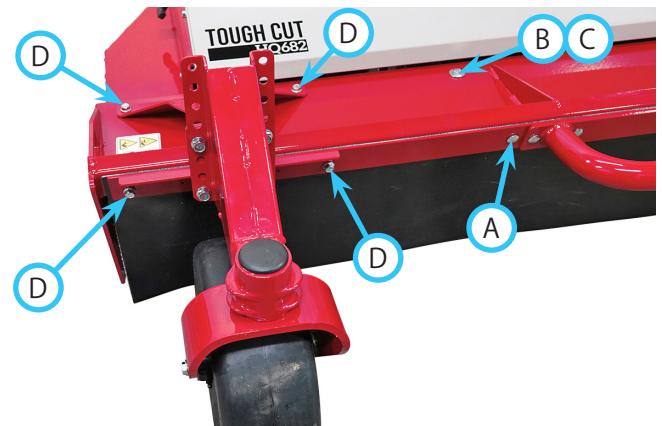
スイベルホイールを外側位置に取り付けたい場合

スイベルホイールは、デッキの外側エッジの近くに取り付けることもできます。

1. 前側ベルトクランプについているキャリッジボルト(A)とナットを外し、デッキフレームのスロットについているボルト(B)、ワッシャ(C)、ナットを外す。



2. ホイール取り付けフレームから、フランジボルト(D)4本とナットを取り外す。
3. ホイール取り付けフレームを外側の2組の取り付け穴に移動し、フランジボルト(D)とナット各4を使用して取り付ける。締め付けトルクは 24 Nm (7.6 kg・m)



4. キャリッジボルト(A)とナットで前側ベルトクランプを固定する。締め付けトルクは 24 Nm (7.6 kg・m)
5. ボルト(B)、ワッシャ(C)、ナットをデッキフレームの内側のスロットに取り付ける。締め付けトルクは 24 Nm (7.6 kg・m)
6. 他のスイベルホイールにもこの作業を行う。

警告

機械の点検、修理、調整などを行う時は、必ず駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを抜き取り、機械のすべての動作が完全に停止していることを確認すること。

注意事項

交換部品は必ず Ventrac 純正品を使用すること。

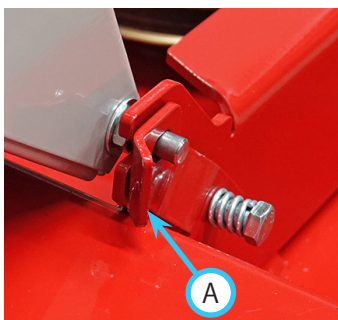
機体の清掃と一般的な保守整備作業

一日の作業が終わったら、刈り込みデッキの清掃と洗浄を行って、機体にこびりついた刈りかすや木葉、土などを除去しておく、外装をきれいに維持することができ、良い結果を得ることができます。デッキの裏面へのアクセスについては、「デッキの立て方」の項を参照してください。

刈り込みデッキを洗浄する時に、ベアリングやシールに高圧の水を直接吹き付けしないでください。洗浄が終了したら、デッキを一度作動させて、駆動系のシールやベアリングの内部から水を追い出しておくことが重要です。洗浄が完了したら、デッキを通常運転位置に戻してください。パワーユニットとデッキを、ほこりやゴミのないきれいな場所に移動し、PTO を 30 秒間作動させて、残っている水を吹き飛ばしてください。

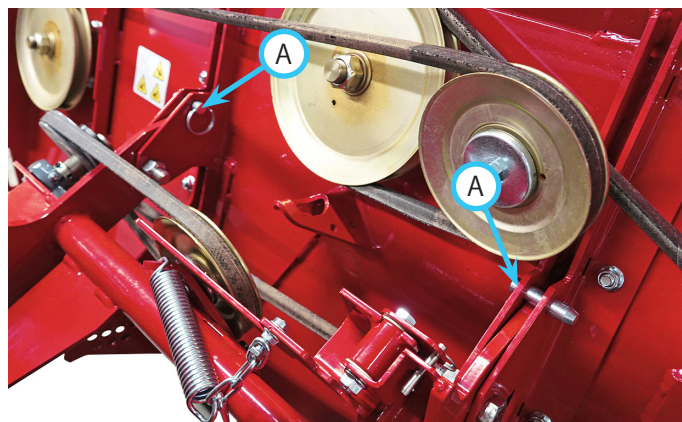
デッキカバーの脱着手順

1. デッキカバー後部にあるゴム製ラッチを外す。
2. デッキカバーを開ける。
3. 刈り込みデッキの前側にある蝶番から、ラッチプレート (A) を抜きとる。
4. 蝶番ブラケットから、デッキの左側を前方に引き抜く。
5. デッキカバーを左にスライドさせ、蝶番ブラケットから右蝶番ピンを外す。
6. デッキカバーを取り付ける時は、まず右蝶番ピンを蝶番ブラケットの穴に挿入する。
7. 次に、左蝶番ピンをブラケットの溝に合わせて押し込む。カチッと音がしてラッチプレートがピンの上に固定されればよい。



デッキの立て方 (デッキを整備位置にするには) 手動で立てる場合

1. パワーユニットとデッキを平らで滑らかな場所に駐車する。
2. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、イグニッションキーを抜き取る。
3. デッキカバーを取り外す。
4. メインベルト用テンションハンドルについているボールピンを外し、ハンドルを 180 度回転させて、メインのデッキベルトの張力を解放する。
5. ヒッチアーム取り付けブラケットからヒッチアーム高さ調整ピンを取り外す。
6. ヒッチアーム前部付近のボールピンを取り外す。
7. エンジンを始動し、パワーユニットのフロントヒッチを最も高い位置まで上げる。
8. エンジンを止め、キーを抜き取る。
9. 芝刈り機のデッキ前部をほぼ垂直の位置まで持ち上げ、ボールピン (A) を前部ヒッチアームの穴に差し込み、デッキを直立位置に固定する。

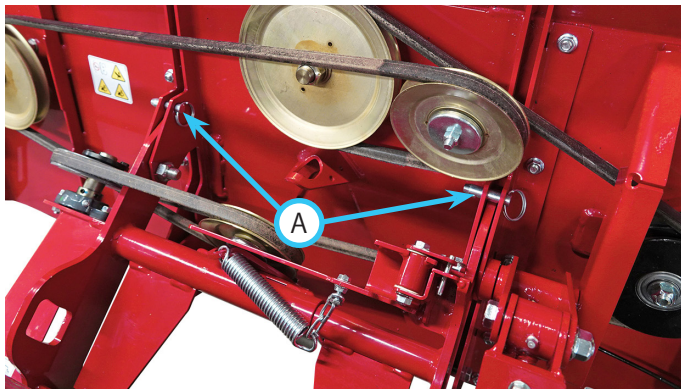


10. デッキを通常運転位置に戻すには、前側の取り付け穴からヒッチアームピン (A) を抜き取って、デッキを倒す。
11. デッキを床面まで降下させる。
12. ヒッチアーム取り付けブラケットに、ヒッチアームピンを元通りに取り付ける。
13. ヒッチアーム前部にボールピンを取り付ける。
14. ベルトがプーリーの溝に正しく収まっていることを確認して、メインデッキベルト用テンションハンドルを 180 度回転させてベルトにテンションをかけ、ボールピンで固定する。
15. デッキカバーを取り付ける。

整備

自動で立てる場合(オプションの油圧フリップアップを使用)

1. パワーユニットとデッキを平らで滑らかな場所に駐車する。
2. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、イグニッションキーを抜き取る。
3. デッキカバーを取り外す。
4. メインベルト用テンションハンドルについているボールピンを外し、ハンドルを 180 度回転させて、メインのデッキベルトの張力を解放する。
5. ヒッチアーム取り付けブラケットからヒッチアーム高さ調整ピンを取り外す。
6. ヒッチアーム前部付近のボールピンを取り外す。
7. 運転席に戻ってエンジンを始動し、パワーユニットのフロントヒッチを最も高い位置まで上げる。
8. 二次 SDLA レバーを左側に引き、デッキがほぼ垂直になって動かなくなるまで保持する。
9. エンジンを止め、キーを抜き取る。
10. ボールピン (A) をフロントヒッチアームの穴に差し込んで、デッキを直立位置に固定する。



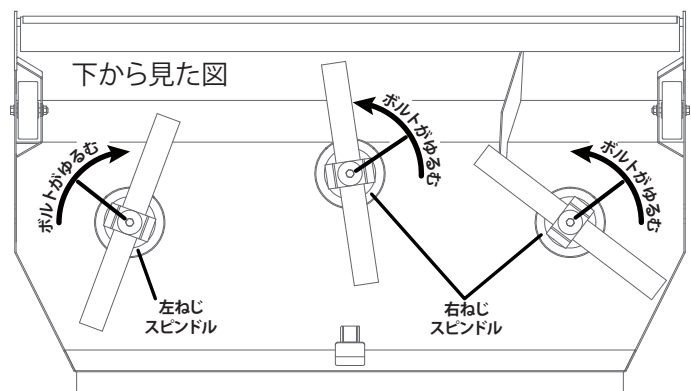
11. デッキを操作位置に戻すには、ヒッチアーム取り付けブラケットからボールピン (A) を取り外し、運転席に戻り、エンジンを始動し、セカンダリSDLAレバーを右に押し、デッキを操作位置まで下げる。注意: 油圧ドリフトによりフロントヒッチが下がった場合は、ボールピンを取り外す前にエンジンを始動してフロントヒッチを少し上げる必要があります。
12. デッキを床面まで降下させる。
13. エンジンを止め、キーを抜き取る。
14. ヒッチアーム取り付けブラケットにヒッチアーム高さ調整ピンを取り付ける。
15. ヒッチアーム前部にボールピンを取り付ける。
16. ベルトがプーリーの溝に正しく収まっていることを確認して、メインデッキベルト用テンションハンドルを180度回転させてベルトにテンションをかけ、ボールピンで固定する。
17. デッキカバーを取り付ける。

刈り込みブレードの点検と交換

⚠ 注意

刈り込みブレードは鋭利である。ブレードを取り扱うときは、必ず厚手の手袋を着用すること。

1. 刈り込みデッキを立てて整備位置にする。
2. ブレード刃先が十分に鋭いかどうか点検する。刃先が丸くなっていたり損傷したりしている場合は、取り外して研磨するか交換する。
3. ブレードの端とデッキとの間に 角材 (5cm × 10cm 程度) を挟み込んで、ブレードが回転しないようにする。
4. 下の図 (デッキを整備位置に立てた状態でマシン前方から見た図) で、左右のスピンドルとボルトの取り外し方向を確認する。



5. ブレードを取り外して、研磨または交換する。
6. ブレードを取り付けてブレードボルトを締める際には、ブレードが回転しないように角材などでブレードをブロックすること。
7. ブレードボルトを 108 N·m (11.1 kg·m) にトルク締める。

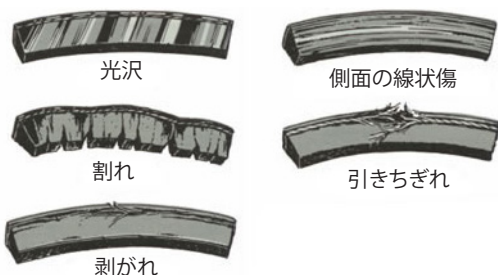
ブレードの研磨

ブレードは研磨後にバランス調整が必要になります。研磨は専門家に依頼してください。バランスを維持しながら、左右とも以前と同じ角度で削り、刃の長さを同じに維持することが必要です。

ベルトの点検

日常点検の一部としてアタッチメントの駆動ベルトを点検することにより、ベルトの劣化を早期に発見することができ、突然のベルト切れといった急なトラブルを防止することができます。

代表的な劣化状態を以下の図に示します。このような状態になったら、ベルトの交換が必要です。



アタッチメント

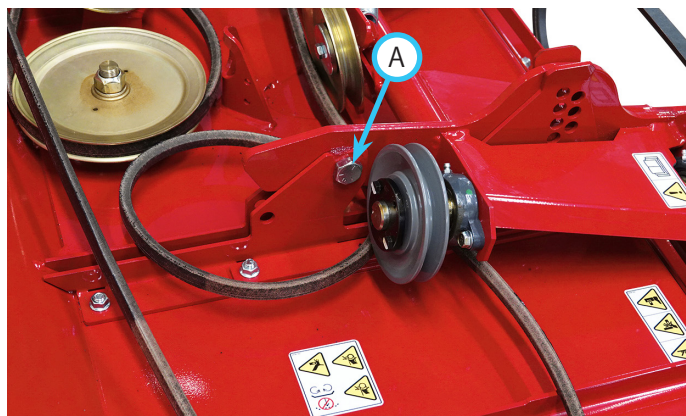
ト駆動ベルトの交換

1. パワーユニットからデッキを切り離す。
2. 駆動プーリのシールド (A) を外す。
3. 古いベルトをプーリから外し、新しいベルトを取り付ける。
4. 駆動プーリのシールド (A) を元通りに取り付ける。ナットを 11 N·m (1.2 kg·m) にトルク締めする。



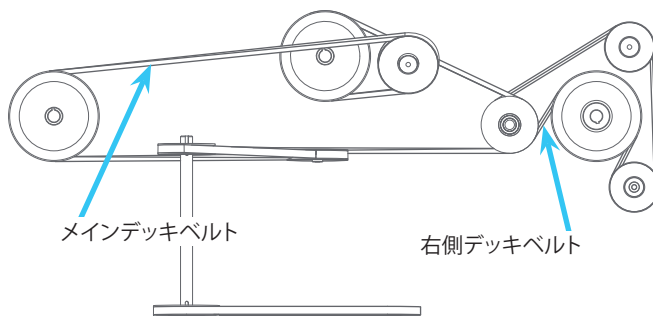
メインのデッキベルトの交換

1. パワーユニットからデッキを切り離す。
2. デッキカバーを開ける。
3. メイン・ベルトテンションハンドルについているボールピンを外し、ハンドルを 180 度回転させて、メインのデッキベルトの張力を解放する。
4. ヒッチアーム取り付けブラケットからヒッチアームピンを抜き取る。
5. ベルトテンショナープーリからベルトを取り外し、左ヒッチアーム取り付けブラケットをベルトで取り囲むように、左ヒッチアームの端に置く。



6. 左右のヒッチアームの両方の取り付けボルト (A) を外し、ヒッチアームアセンブリを持ち上げて前側取り付けブラケットから浮かす。

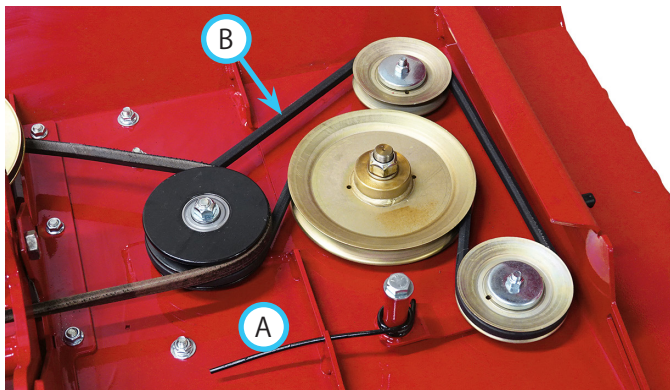
7. 古いベルトをスピンドルプーリから取り外す。
8. ベルト配置図に従って新しいベルトをスピンドルプーリに取り付ける。



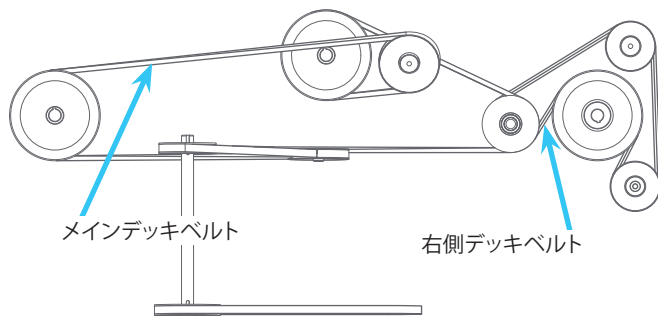
9. 取り外しの時と同じように、左のヒッチアーム取り付けブラケットを取り囲むようににベルトを配置する。
10. ヒッチアームアセンブリをブラケットに元通りに取り付け、ボルトを 205 N·m (21 kg·m) にトルク締めする。
11. 駆動シャフトプーリとベルトテンショナープーリにベルトを回しかける。
12. ベルトが正しく取り付けられ、各プーリの溝に収まっていることを確認する。
13. メインデッキベルト用テンションハンドルを 180 度回転させてベルトにテンションをかけ、ボールピンで固定する。
14. ヒッチアームの上部に、リアボールピン 2 個を取り付ける。
15. デッキカバーを閉じてラッチを掛ける。

右側デッキベルトの交換

1. パワーユニットからデッキを切り離す。
2. デッキカバーを開ける。
3. メインベルト用テンションハンドルについているボールピンを外し、ハンドルを 180 度回転させて、メインのデッキベルトの張力を解放する。
4. 右側デッキベルトを駆動するダブルプーリの上側の溝からメインデッキベルトを取り外す。
5. 右側ベルトのテンションスプリング (A) を解除する。



6. 右側ベルト (B) を取り外す。
7. ベルト配置図に従って新しい右側ベルトをプーリに取り付ける。右側デッキベルトは、下側のプーリに取り付けること。

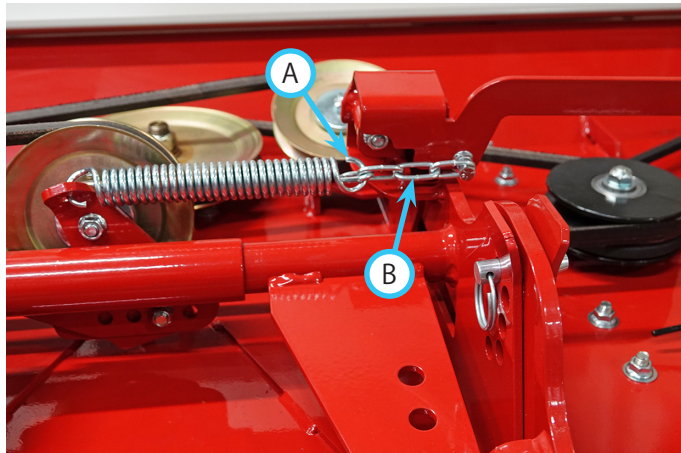


8. 右側ベルトのテンションスプリングを掛ける。
9. メインデッキベルトをダブルプーリの上側のプーリ溝に入れ、各ベルトがそれぞれのプーリの溝に正しく収まっていることを確認する。
10. メインデッキベルト用テンションハンドルを180度回転させてベルトにテンションをかけ、ボールピンで固定する。
11. デッキカバーを閉じてラッチを掛ける。

メインデッキベルトのテンション調整

普通に運転しているのにメインデッキベルトがスリップする場合には、ベルトの張りの調整が必要です。

1. デッキカバーを開ける。
2. メインベルト用テンションハンドルについているボールピンを外し、ハンドルを 180 度回転させて、メインのデッキベルトの張力を解放する。
3. 延長スプリングフック (A) を、メインベルト用テンションハンドルに近い方のチェーンリンク (B) に移動させる。



4. メインデッキベルト用テンションハンドルを180度回転させてベルトにテンションをかけ、ボールピンで固定する。
5. デッキカバーを閉じてラッチを掛ける。

整備

潤滑ポイント

以下の箇所には、リチウム系複合 NLGI #2 グリスによる潤滑を行ってください。

グリスフィッティングにグリスガンを接続する前に、グリスフィッティングの汚れを拭き取ってください。

整備間隔とグリスの量については、定期整備項目一覧表を参照してください。

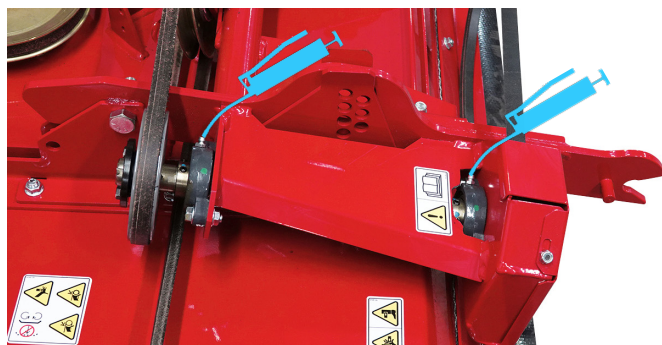
1. 固定ホイールのグリスアップを行う(左右とも)。



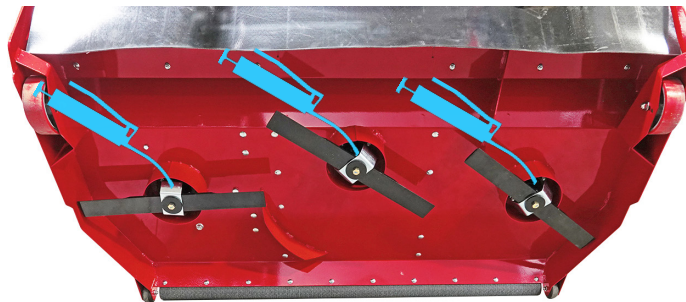
2. キャスタホイールの軸とピボットをグリスアップする。



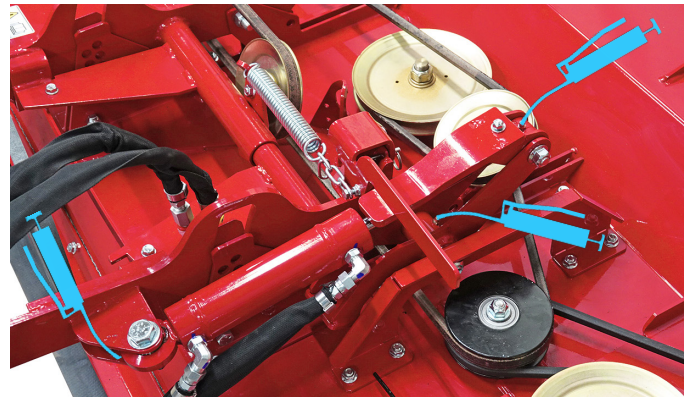
3. 駆動シャフトのベアリングをグリスアップする。



4. スピンドルのグリスアップを行う。



5. 油圧フリップアップキット搭載機では、シリンダの端部とフリップアップロッカーブラケットのグリスアップを行う。



格納保管

アタッチメントの格納保管準備

1. アタッチメントについている刈りかす、落ち葉、ごみなどを取り除いてアタッチメントを洗浄する。
2. ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。摩耗・破損した機器は交換する。
3. ベルト、スピンドル、ブレードの点検を行う。摩耗・破損した機器は交換する。
4. 安全デカルを点検する。色あせ、判読不能、または欠落しているデカルは交換する。
5. グリスポイント全部にグリスを注入する。はみ出たグリスは拭き取る。
6. 油圧式フリップアップを搭載している場合は、油圧ホースに損傷や摩耗がないか点検する。油圧ホースとフィッティングを点検し、接続部がしっかり締まっていいてオイル漏れがないことを確認する。
7. 塗装部分に剥がれ、ひっかき傷、錆などがないか点検する。必要に応じてタッチアップする。

保管状態から通常使用状態への復帰

1. アタッチメントにたまっているゴミやほこりを除去する。
2. このマニュアルの「日常点検」の手順に従って、アタッチメントの点検を行う。
3. 試運転を行って、すべてのコンポーネントとシステムが正常に動作することを確認する。

整備

整備スケジュール

	箇所数	ポンプの数	必要に応じて	毎日	50 時間	100 時間	150 時間	200 時間	250 時間	300 時間	350 時間	400 時間	450 時間	500 時間	550 時間	600 時間	650 時間	700 時間	750 時間	800 時間	850 時間	900 時間	950 時間	1,000 時間	1年ごと	
グリスと注油：潤滑の章を参照																										
駆動シャフトのベアリング	2	1			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
固定ホイール	2	1			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
スィベルホイールキャスト	2	1			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
スィベルホイール軸	2	△	**		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
スピンドル	3	3			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
油圧フリップアップシリンダの端部	2	△			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
油圧フリップアップのロッカーブラケット	2	△			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
点検																										
機器・部品のゆるみ、欠落、損も度の確認				✓																						
ベルトとプーリの点検				✓																						
ブレードとブレード取り付けボルトの点検 締め付け: 108 Nm (7.6 kg.m)				✓																						
ヒッチのピボットボルトの点検 締め付け: 205 N・m (21 kg.m)						✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		✓		
安全デカルの点検				✓																						
△新しいグリスがはみ出てくるまで注入を続ける。																										
**苛酷な条件下で使用している場合には、より頻繁な点検・整備が必要となります。																										

定期整備チェックリスト

	箇所数	ポンプの数	必要に応じて	毎日	50 時間	100 時間	150 時間	200 時間	250 時間	300 時間	350 時間	400 時間	450 時間	500 時間	550 時間	600 時間	650 時間	700 時間	750 時間	800 時間	850 時間	900 時間	950 時間	1,000 時間	1年ごと
グリスと注油：潤滑の章を参照																									
駆動シャフトのベアリング	2	1																							
固定ホイール	2	1																							
スィベルホイールキャスト	2	1																							
スィベルホイール軸	2	△	**																						
スピンドル	3	3																							
油圧フリップアップシリンダの端部	2	△																							
油圧フリップアップのロッカーブラケット	2	△																							
点検																									
機器・部品のゆるみ、欠落、損も度の確認																									
ベルトとプーリの点検																									
ブレードとブレード取り付けボルトの点検 締め付け: 108 Nm (7.6 kg.m)																									
ヒッチのピボットボルトの点検 締め付け: 205 Nm (21 kg.m)																									
安全デカルの点検																									
△新しいグリスがはみ出てくるまで注入を続ける。																									
**苛酷な条件下で使用している場合には、より頻繁な点検・整備が必要となります。																									

仕様

寸法

全高.....	56 cm
全長.....	150 cm
全幅.....	175 cm
重量.....	215.5 kg
刈幅.....	173 cm
刈高範囲(固定ホイール).....	76 - 108 mm
刈高範囲(スイベルホイール).....	89 - 178 mm

特長

- ヘビーデューティデッキ構造
- 後方排出設計
- デッキのフリップアップ機能
- ヘビーデューティ刈り込みブレード